

平成30年度 第1回学校協議会 会議録

1 日 時 平成30年7月11日(水) 18:00～

2 場 所 産業高校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員(50音順)

産業高等学校元PTA会長 池内 美智子

産業高等学校同窓会副会長 北野 好美

産業高等学校PTA会長 竹代 開

岸和田市立中学校長会会長 花田 英紀

産業高等学校前校長 久井 孝則

(2) 学校

校長 楠戸 啓之

全日制教頭(司会) 西村 元博

定時制教頭 榎本 正広

全日制教務部長(首席) 大西 敦子

全日制進路指導部長(首席) 杉垣 かおる

事務長(記録) 小林 大樹

4 次第

(1) 校長挨拶

(2) 平成30年度協議会委員紹介及び会長選出

会長に久井委員を選出

(3) 会長挨拶

(4) 自己診断における平成30年度目標設定について

○大西教務部長

○榎本教務部長

(目標設定は、全日制・定時制別でホームページの学校教育自己診断に掲載しています。)

○質疑応答

(委 員) このアンケートは全学年実施しているのか。

(事務局) 全学年で実施している。

(委 員) 進路指導は何年も前からキャリア教育が必要とされている。どうしても対象が3年生中心になるが、学年ごとの集計は行っているのか。

(事務局) 各学年で集計している。

(委 員) 生徒指導の面で一番問題と考えているのは何か。

(事務局) 特に取り立てて困っていることはない。校則が厳しいという意見が多いが、学年が上がるにつれて指導の意味を理解する傾向にある。

(委 員) 定時制の在籍数はどれぐらいか。

(事務局) 1年生が35名、2年生も35名、3年生が19名、4年生が2名である。

(委員) 定時制では、昨年度からアクティブラーニングに取り組んでいるとのことだが、アクティブラーニングとは具体的にどんなものか。

(事務局) 教員から一方的に知識を提供するのではなく、生徒に考えさせ答えを導き出させる方法。定時制ではなかなか発言してくれないなど、難しい部分もあるが、次の学習指導要領では、コミュニケーションや表現力が重要になってくると言われている。生徒にもそのような学力を身につけてほしいと考え取り組んでいる。

(委員) 岸城中学校夜間学級から何名ぐらい本校定時制に進学しているのか。

(委員) 何名か入学している。近年の夜間学級に通学する生徒の状況が変化しており、最近では9割が外国籍の生徒で13ヵ国から来ている。年代は若い生徒が多く、府立高校や産業高等学校定時制に入学する生徒も増えてきている。

(委員) 本校定時制課程でも外国籍の生徒が増えてきているのか。

(事務局) 増えてきている。非常に勉強熱心で頑張っているが、漢字や商業の専門用語、社会科、国語などは言葉の課題があり、なかなか難しいようだ。定期テストでは漢字にルビ打ちをするなど、今後もいろいろと工夫をし、対策を検証していきたい。

(委員) 市民センターで開催している日本語講座にも外国人の方が増えている。

(委員) 商業科ではいろいろと専門用語も多いが、そのあたりの理解はできているのか。

(事務局) そのあたりを一番心配している。

(委員) 中学校では英語の授業を実施しているので、ヒンドゥー語やアラビア語の生徒は英語が話せる生徒を介してやり取りするなど対応している。

(事務局) 高校の授業で通訳を介して受けることは非常に厳しいと思う。

(委員) 外国籍の生徒が入試を受験する場合、一般と同じか。

(事務局) 入試では問題にルビ打ちと試験時間延長の配慮受験を行った。

(委員) 昨年度は「授業が分かりやすく楽しい」という項目が上昇していたと思うが。

(事務局) 昨年度は、普通教室に単焦点プロジェクタを導入したことの影響が非常に大きいと思う。その後は授業に慣れてきたこともあり、数値が一昨年に戻った。

(委員) 企業では目標設定を売り上げなど数値として扱いやすい項目もあると思うが、学校での評価は数値では表れない部分もある。企業ではどのような目標設定と管理をしているのか。

(委員) 私の会社では、年1回第三者機関を通して社員、責任者、本社で行っている。

(5) 本校の進路状況について (全日制)

○杉垣進路指導部長

平成29年度の進路状況は、卒業生275名のうち、学校就職は89名。求人は、7月末時点で232人分161社であった。これまでは女子が事務職、男子は製造・現業職の割合が多かったが、昨年度は男子の事務職が増加。一次内定率は5年連続で80%を超えた。警察官、陸上自衛隊にもそれぞれ合格。四年制大学については和歌山大学へ推薦入試で合格。他、桃山学院大学、大阪経済大学、大阪商業大学、摂南大学、大阪芸術大学など私立大学へも多数

進学している。短期大学へは、常磐会短期大学、プール学院短期大学、大阪女学院短期大学など、栄養士を目指し大阪夕陽丘学園短期大学の食物栄養学科へも進学している。専門学校への進学は多岐にわたる。看護医療系については、大学や専門学校など希望者全員が推薦入試で合格、よい結果が得られた。

今年度、学校就職希望者は100名。これは昨年度の求人数が多く快調であったためと思われる。デザインシステム科の就職希望者も多い。求人票の受付開始約1週間で計179名分122社の求人をいただいた。今後、生徒の希望を確認し、まずは職場見学から始める。

本校の就職対策は、5月に企業訪問、今年度は136社を訪問した。生徒は4月から面接練習をはじめ、外部講師による面接指導も行った。筆記試験対策は、SPIや常識テスト。8月には三者懇談で希望を絞り、これを受け校内選考が行われる。履歴書作成や集団討論などは主に担任団と進路指導部で協力し指導している。

進学対策は、3年生で進学講習を開講。希望者申し込み制で10月末まで設定しており、それ以降も入試が続く場合は個別指導を行う。4月に担任、6月は進学担当者との面談を実施し、情報共有している。また、6月には和歌山大学への訪問も実施した。

大学入試改革への対応については、ジャパンeポートフォリオについて進めている。主体性等を評価するために取り入れられており、この対応としてベネッセのファインシステムを導入している。これにより生徒はスマートフォンやパソコンからクラブの大会結果や検定の可否の結果を入力し、それを振り返ってどのような活動をしてきたのか、次にどうように活かしていくのかを書き込んでいく。主に進学者で使うことになるが、就職者も面接の材料として使えるので全員に取り組みさせている。

○質疑応答

(委員) 学校就職者が89名とのことであるが、近隣の高等学校と比べて多い方か。

(事務局) 多い方である。

(委員) 全体の3割が就職するという状況であるが、以前とは進学率と就職率が逆になっていると思うが。

(委員) 昔はほとんどが就職で、進学者率は10%あるかどうかだと記憶している。和歌山大学に進学できるということは相当レベルが上がっていると思う。

(委員) 進学も就職もできるというメリットがあると思う。

(委員) 履歴書をワープロで作成することはできないか。入試がデジタル化の方向に進んでいると聞いているが。

(委員) 企業によるとお客様相手の場合、文字を書くことが多くなる。そのような仕事では文字の美しさは一つの判断材料になる。

(事務局) 生徒には、会社に届く最初の書類が履歴書であるので、きれいに書けるようにと指導している。苦勞して何度も書き直している生徒もいるが、乗り越えなければならぬハードルと考えている。

※次回開催は、2学期を予定 19時00分 終了